

## 編 集 後 記

最近、学会や研究会が余りに多いことは編集後記に半ばボヤキのように毎回書きますが、北震災でも同一演題を全国学会前の練習会のごとく出すのが当たり前になっており、発表数は多くても仕事、業績が増えているわけではないと思う。医学界はまさに学会バブルです。学会誌や研究会誌、その他商業雑誌の数も溢れんばかりで（本会誌も one of them……？）とても読み切れません。昔、先輩が学会誌は商業誌と異なり権威があると教えてくれたが、それは伝統があるから？しかし、自動的に送られてくるお馴染みの日整会誌、北震災誌は実は余り読まず、特に最近の北震災誌は学会抄録がほとんどを占め投稿論文が少ない。このような状況の中、本研究会は世代を超え、また、専門を越えてディスカッションできる会として存続させたい。整形外科医であれば専門が違って骨折、外傷は扱うわけで、外傷治療は共通言語みたいなものだからそれも可能だろうと思う。

今回は109回の15演題中8編、110回の12演題中9編の論文と研究会当日の要旨と質疑応答を基に構成しました。教育研修講演は現、東大形成外科、光嶋勲教授の『手足の軟部組織再建に有用な穿通枝皮弁』と君津中央病院、田中正先生の『下肢長幹骨骨折に対する低侵襲プレート法—MIPOを行うための基礎知識—』でしたが、それぞれ大変価値のある講演でした。御多忙の両先生から論文を頂戴しました。これら2編の掲載だけでも十分価値のある会誌だと自負します。

この1年は自然災害が多発し、台風による強風で札幌市内も被害に遭いました。秋には新潟中越地震で神戸以降忘れかけていた地震の怖さを思い出し、年末のスマトラ沖巨大地震と津波では島や国が亡くなる天災の凄まじさをまさに恐怖と感じました。突然の災害では身の守りようありませんがとにかくお互いの無事を祈りましょう。本研究会の創設期から長年にわたり会の運営や若手の教育にご尽力下さった渡部高士先生が昨年6月お亡くなりになりました。合掌。

編集係：八木知徳  
佐藤栄修  
佐久間隆  
土田芳彦

北海道整形外科外傷研究会会誌 第21巻

平成17年3月31日

編集・発行 北海道整形外科外傷研究会

代 表 荒 川 浩

事 務 局 札幌市中央区南9条西10丁目

札幌中央病院 整形外科内

（昭和60年3月2日 創刊）

印 刷 富士プリント株式会社